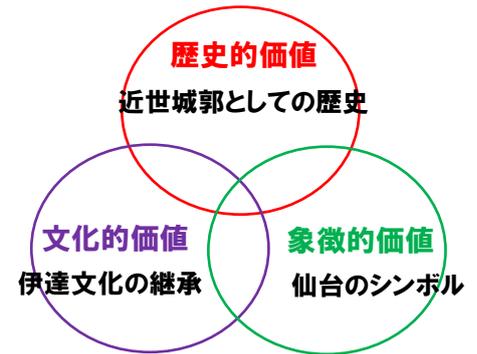


仙台城跡における本質的価値の検討

仙台城跡の本質的価値（前回案）

- 1 良好に残る城郭全体の基本的形状と各遺構
- 2 本丸北壁石垣の変遷と城内の石垣にみる変化
- 3 政宗らしさをうかがわせる特色ある遺構と遺物
- 4 自然環境との高い一体性
- 5 時代を反映した城郭構造と歴史的眺望

仙台城跡の本質的価値（全体的価値）



【前回案】

- 1 基本的形状・各遺構
- 2 石垣変遷
- 3 政宗らしさ
- 4 自然との一体性
- 5 城郭構造・眺望

【今回案】

- 1 **基本的形状と各遺構**
自然地形利用、自然と一体的な歴史的景観
- 2 **石垣変遷**
内容同じ
- 3 **城郭構造**
眺望の観点弱めに
- 4 **政宗らしさ**
伊達文化の継承、日本遺産との連携
- 5 **仙台の象徴**
近世： 藩政の中心 → 権威の象徴
近代 } 公園、軍隊、大学
 } 史跡、天然記念物
 } 学び・活力の場
現在 } 杜の都の原点 → 仙台の象徴

歴史的価値

文化的価値

象徴的価値

再構成の要点

- 前回案4のうち、近世的価値（自然地形利用）と現代的価値（都市近郊の自然林）を、今回案1と5に分離。
- 今回案3では、二の丸の記述を充実し次代を反映した城郭構造の説明を主とする。
- 今回案4は、政宗を始まりとする伊達文化の継承（現代までの視点）や日本遺産との連携も視野に入れたものとする。
- 今回案5は、近世から現在までの仙台の象徴としての価値を記述。土地利用の変遷とその都度の市民の思いを含めたものとする。
- 眺望・景観の観点については、各価値の内容に応じて記述する。